

2021年度 人間学部【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
1.募集 全ての学科で定員充足率100%をめざす。受験生早期獲得を目指し、来校型オープンキャンパスを、感染対策を講じながら積極的に実施し、9月統合型選抜(オープンキャンパス参加型)に取り組む。	1)受験生サイトの動画等の充実を図る。学科の雰囲気、授業紹介動画などプログラムの充実に努めた。 2)OC参加型の模擬授業、受験生用レポート用紙などについて検討を重ね、受験しやすい方法を模索した。 3)OCは対面型により実施。キャンパスツアーなどに教員が立合い、魅力的な説明に努めた。 4)児童発達学科では、志望者数減少についてアドミッションオフィスとともに現状分析を行った。児童発達学科将来構想委員会にて2023年度より新設コースの検討。「国際こどもコース」を設置することとなった。	入試G資料 大学30周年記念式典にて児童発達学科長から新設コースについて発表	入学予定者数(2022年3月31日確定) コミュニケーション社会学科 52名(86.7%) 児童発達学科 75名(57.7%) 人間福祉学科 71名(64.5%) 心理学科 113名(113.0%) 合計 311名(77.8%) 前年度より学生数減となった。他学部からの第二志望入学が見込めない状況となるとともに、児童発達学科の落ち込みが大きかった。	入試G入学予定者数	学部の大きな課題である。各学科の魅力は何か、改めて分析する必要があるとともに、広報媒体を見直す。特にHPについては、入試広報Gと連携をとりながら魅力を伝える努力を要する。学科長懇談会、入試委員会を中心として各学科が定員確保に向けて何ができるのか議論を重ねる。 児童発達学科の新コース開設に向けて広報、入試方法等現在も活動しているが、OCでもアピールを重ねていく。
2. 教学① 前年度退学率下回るよう1.8%を目標とする。クラスアドバイザー面接等を通して、学生の就学意欲や経済的状況について把握するように努め、課題を共に考え対応方法等のアドバイスを行う必要がある。経済的支援プログラムについて学生委員とも協働し、学生へ着実に情報が回るようにする。	退学率は3.6%であった。目標値を1.8%上回っている。人数内訳で見ると退学者、除籍者がほぼ同数である。経済的理由、また就学意欲の低下等の理由がみられ、コロナ禍の影響も示唆される。	教務委員会 学籍状況報告	各学科クラスアドバイザー面接について、1年生は前期中に最低1回は面接を実施している。特に児童発達学科では全員対面で面接を行い、大学への愛着形成に努めた。学科別でみるとコミュニケーション社会学科が多い傾向、学年別ではあまり差がみられない。	教務委員会 学籍状況報告 学生委員会	各学科で退学者数を共有し、退学率低下への対策を講じる。カリキュラムの理解、卒業までの見通し、経済的な支援についての情報提供など、教務、学生双方の連携にも取り組む。
2. 教学② 2020年度は調査方法が2019年度と異なっていたため比較が難しかった。授業満足度では2019年度実績およびコロナ禍の学修環境の現状を踏まえ満足が72%を目指す。また、2020年度調査から授業についていけないと感じる学生、授業、環境への不満を持つ学生について50%を下回るようにする。	2021年度の学修状況調査の結果では、学生は授業および学修環境について79.6%が満足と回答。	教務委員会	2021年度の学修状況調査の結果では、学生は授業および学修環境について79.6%が満足と回答しており、昨年度より40ポイント増加し、一昨年度の水準と比べても5ポイント上回っていた。また、昨年度は同一項目で質問していた学修環境に関する満足度も72.1%と昨年度より32ポイント増加した。概ね目標値を達成できた。昨年度はコロナ禍において異なる形態での授業運営となり、教員学生双方に新たな学修環境に十分に適応できていなかったことが考えられる。本年度も授業形態の変更はあったが、昨年度の経験も活かし、円滑な対応を行うことができた。また、対面授業の実施率(人間学部前期71%、後期90%)が高くなったことが満足度に大きく影響していると考えられる。 対面授業の比率が高くなり、教員及び学生同士のコミュニケーションの場がある程度確保されたことが寄与して	授業満足度調査 対面授業実施率	対面授業を多く実施したことから、学生の満足度も上がっている。学部の学生は対人援助職を目指す者も多く、遠隔授業のみで実習に出ることには不安を訴える者も多い。感染防止対策を徹底しつつ可能な限り対面授業を実施し、実験、実技、実習、演習など学生が活動できる幅を広げたい。一方でオンデマンドを効果的に活用し、知識理解の定着を図る工夫も行われた。効果的な授業方法を教員間で検討していきたい。
2. 教学③ 基礎学力テストの結果を各学科に共有し、初年次教育担当者間で教育内容や方法の検討する機会をもつ。	継続して検討を行った。クラス分けなどに活用することで教育活動に生かした。	教務委員会	心理学科、児童発達学科においてテスト結果を活用した。学生実態の把握ができ、指導に生かすことができた。	教務委員会議事録	引き続き、活用方法を検討していく。

2022年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1. 募集① 定員充足率100%をめざす。定員充足に向けて学部全体で取り組む。HPコンテンツの充実に図る。各学科の教育活動の工夫、教員の努力をアピールできるように検討する。 募集② OCのガイダンス内容を精査し、学部の魅力をアピールする。学生の協力を得て、生き生きした大学紹介ができるようにする。OCプログラムについて学科の魅力を紹介するツアーを開催する。 募集③ 総合型選抜、指定校推薦で受験生を集められるようアドミッションオフィスと連携する。 募集④ 児童発達学科新コース国際こどもコースの広報を3月OCより開始する。ガイダンス、個別相談など充実させる。
2. 教学① 退学率が減少するよう努める。2020年度に近づけ2.0%をめざす。人間学部は学科特性が強いことから各学科で退学率を減少させるための方略を具体的に立案し、対応する。教務委員会、学生委員会の連携を円滑にとれるよう学科会議で学生について取り上げるようにする。 教学② 教学マネジメント充実に図るために3Pの見直しを行っていく。各学科で教育の質向上を図るための評価方法と連動させていく。 教学③ 対面授業を充実させるために、感染防止対策、学生の健康観察指導を引き続き徹底する。また、履修者数の多い科目はオンライン授業も併用していく。オンライン(オンデマンド)の効果について検証する。 教学④ 免許・資格養成課程をもつ学科は、確実に取得に結びつくよう履修指導を徹底する。児童発達学科では1%増、人間福祉学科では国家試験合格率を1%増をめざす。

2021年度 人間学部【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
2. 教学④ 人間福祉学科が養成している各資格国家試験合格率は前年度結果より社会福祉士40%、精神保健福祉士65%、介護福祉士100%をめざす。児童発達学科では資格免許取得率保育士97%、幼稚園教諭96%、小学校教諭96%、専門職就職率92%をめざす。	人間福祉学科の国家資格合格率は向上し目標値を大幅にクリアした。(介護福祉士合格発表は3月25日)社会福祉士:54.5%(全国平均31.1%)精神保健福祉士:71.4%(全国平均65.6%)介護福祉士:100%(全国平均72.3%) <児童発達学科免許・資格取得者数及び取得率> ・保育士、幼稚園は目標値達成、小学校は単位取得状況や進路変更により取得率が目標値より下回った。 保育士取得者数:104(94.5%) 幼稚園取得者数:126(96.3%) 小学校取得者数:51(92.7%) *()内、取得希望者数に占める割合	教務委員会人間福祉学科実習指導室児童発達学科実習指導室	人間福祉、児童発達共に前年度より向上している。特に人間福祉学科のオンラインを含む対策講座の充実の成果が表れたと考えられる。介護福祉士については、本郷キャンパスに移動した学生へも本郷で対策講座を行った成果も出ていると考えられる。	人間福祉学科国試対策委員会児童発達学科実習指導室	学生実態の変化により、免許、資格についての理解を深める、卒業後のキャリアデザインへの影響を伝えるなど、指導すべきことも増えてきている。教務ガイダンス、実習関係の授業が連携して学生への動機づけをしていく。国試対策講座については、継続して実施していく。
2. 教学⑤ 学部FDの充実を図る。年2回開催し、教員間で情報交換、問題解決につながるようオンラインでの研修会方法を工夫していく。	学部FDを2回実施した。(オンライン開催) 2021年7月14日「コロナ禍における対面式授業の課題と工夫(特に演習・実験・実習等)」 2022年1月19日「大学におけるデータサイエンス科目導入とDX—その背景と課題」 学部専任教員が全員参加して、分科会	2021年度FD報告書	前期学部FD満足度89.5%、後期学部FD満足度96.7%となり、学部教員のニーズに合ったFDテーマの設定ができていると考えられる。	2021年度FD報告書	オンラインで実施したが、分科会などでは活発な意見交換があった。各学科のニーズを拾い上げながら企画していく。
3. 国際化 グローバルな視点を持つためにも日本在住の外国人との交流の機会等経験できる方法を検討する必要がある。 児童発達学科では新カリ4年生に英語教育に関する科目がある。異文化理解など共生の理念について関連する分野を取り上げる。	1)コロナ感染拡大により今年度も海外短期FWはすべてのプログラムが中止となった。 2)韓国交換留学プログラムは実施できている。現在4名の学生が継続中。 3)2022年2月12日 日台シンポジウム「日本と台湾におけるケアマネジメントの現状と課題～在地老化(Aging of Place)とケアマネジャーの役割とは～」(オンライン開催) 教職員、学生73名が参加 4)ランゲージサロン予約利用 前期895名(2021年度790名)、640名(2021年度445名) 特に1年生の利用率が高い。(前期全体の89.4% 後期全体の85%)	国際交流委員会	コロナ禍が続き、今年度も留学プログラムの中止が相次いたが、一部再開できたプログラムもあった(韓国交換留学プログラム)。オンラインを活用して海外とのシンポジウムを実施するなど、新たな国際交流の形を模索している。ランゲージサロンは利用者が増加し、対面授業が増加するとキャンパス内の様々な施設、プログラムへの参加も増えることが示唆される。	国際交流委員会記録、ランゲージサロン利用者数	コロナ感染状況をとらえつつ、留学プログラムの実施に向けて条件等クリアしていく。

2022年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
教学⑤ 教学マネジメント構築に努める。入学前教育、基礎学力テスト、PROGなどを連携させながら学生の学修について把握する。各学科のDPの見直しを図るとともに、学生側のDP到達度チェックシートの科目について再検討を行う。認証評価の指摘事項への対応も含む。
教学⑥ 児童発達学科では国際こどもコース設置に関連してカリキュラム変更を行う。その際、各免許・資格養成課程の科目のスリム化を図る。
3. 国際化 留学プログラムの実施に向けて準備を進める。国内でできる交流プログラムの前年度同様、模索する。児童発達学科の国際こどもコースの実習先開拓、キャリア支援の準備をしていく。

2021年度 人間学部【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
4. キャリア 就職率:各学科で前年度比1%増をめざす。B'sレゾナンスを踏まえ、キャリア支援活動の充実、きめ細かいキャリア支援を通して就職実績の向上を図ることを主眼とする。具体策としてキャリアセンターと学生が早期に信頼関係を築けるよう、3年生からキャリアセンターからの連絡をオンラインで発信するなど就活意識を醸成していく。コミュニケーション社会学科は、本郷キャンパスで就職支援を受けることができる。企業就職が中心の学科であるため、これは有利に働くと考えられる。学生に積極的に動けるよう支援していく。 4年生には、キャリアセンター教員が連携をとりつつ、学生の不安や迷いに寄り添いながら満足できる就職内定を得られるよう支援する。また、公務員講座等専門職就職については、参加を促していく。大学・在校生と卒業生との絆をさらに深めていき永久研究所大学に注力する。	2022年3月15日現在 就職内定率 コミュニケーション社会 87.5% 人間福祉(本郷)90.0% 人間福祉 88.2%(専門職内定率96.7%) 児童発達 99.2%(専門職内定率97.5%) 心理 97.3% 学部全体 95.3% ・資格・免許取得可能な学科では、専門職内定率が向上した(目標値を達成)。一般職においても上場企業内定率が26.8%であった。 ・教員とキャリアセンターが連携し学生の就職活動の状況を共有、また、学生からキャリアセンターへ連絡するよう教員から指導するよう教授会でも呼びかけられた。	キャリアセンター	2020年度→2021年度(2022.3.14現在)就職率 コミュニケーション社会学科88.7%→87.5%、児童発達学科90.5%→99.2%、人間福祉学科(SW)87.8%→96.7%、人間福祉学科(福マ)今年度より90.0%、心理学科79.4%→95.3%となり、コミ社が1.2ポイント減の他は増となっている。専門職内定率も改善しており、概ね目標を達成している。	キャリアセンター就職状況報告	本郷に移動するコミ社、人間福祉福祉マネジメントコースの学生のフォローに努める。担当の教員が関心を持てるようキャリアセンターとの連携を強化する。
5. 地域連携 4センターの活動について、コロナ禍で可能な内容を模索していく。前年度の活動は継続していく。またTJUPについては、単位互換、プログラムへの講師など人間学部の専門性を生かした形でできる限り協力する。	1)保育実践研究センター:週1回予約開所、多目的利用プログラム(5回開催)の新設、公開研究会オンライン開催、学生利用委については職員のガイダンス実施、授業活用は困難であった。 2)地域連携センター:利用者との文通、寄付活動など直接の接触を控えつつ活動を継続。 3)まちづくり研究センター:オンラインによるシンポジウム開催、SDGs関連の分別アート 4)Tjup:地域交流委員会共同FD・SD研修講座に人間学部教員(中山智晴先生)が講師・コーディネーターとして参加。	地域連携関連	コロナ禍が続いたが、各センターが前年度の経験を生かし、活動のあり方を工夫した。オンラインを活用したシンポジウムや公開研究会などを行うことで参加者が広域から集まったり、増えたりしている。ポストコロナの新たな形を示すものである。		社会連携研究所が開設されることから、所長と連携しながら学部の関連活動について検討していく必要がある。学部として計画を立案すべきであるかについても検討を要する。
6. 研究 科研費申請数を前年度より2本増やす。学内共同研究費、学長裁量経費の獲得本数を前年度並みとする。	・科研費応募数前年度比2件増、共同研究助成金採択数1件増、学長裁量経費前年度並み <採択数等> ・科学研究費補助金:6件応募、3件採択(採択率50%) ・共同研究助成金:代表者3件応募、3件採択(内1件、コロナの影響により途中辞退) 分担研究者1件応募、1件採択 ・学長裁量経費:代表者5件応募、2件採択(内1件、採択金額では研究困難な	教授会報告	科研費の申請数2件増加。共同研究助成金、学長裁量経費についても前年度並みの採択があった。	教授会・総合研究所資料	引き続き、教員の研究環境を整えていく。

2022年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
4. キャリア 就職率:各学科で前年度比1%増をめざす。前年度の方法をさらに充実させる。具体策としてキャリアセンターと学生が早期に信頼関係を築けるよう、3年生からキャリアセンターからの連絡をオンラインで発信するなど就活意識を醸成していく。コミュニケーション社会学科は、本郷キャンパスで就職支援を受けることができるので、十分に活用できるよう支援する。教員から積極的に働きかけ、学生が動けるよう支援していく。 4年生には、キャリアセンター教員が連携をとりつつ、学生の不安や迷いに寄り添いながら満足できる就職内定を得られるよう支援する。また、公務員講座等専門職就職については、参加を促していく。オンラインを活用し、大学・在校生と卒業生との絆をさらに深めていき永久研究所大学に注力する。
5. 社会連携(地域連携改め) 人間学部では4センターの活動について特に取り組んでいきたい。各センターの特性を改めて解析し、コロナ禍での活動、プログラムの見直しを図る。特にオンラインを活用した内容を充実させていく。前年度の活動は継続していく。またTJUPについては、単位互換、プログラムへの講師など人間学部の専門性を生かした形でできる限り協力する。また、実学としてセンターの活動は教育活動にも有効であると考え。学生の参画を増やせるよう工夫していく。活動内容は入試広報にも活用する。
6. 研究 科研費申請数を前年度(6件)より2件増やす。学内共同研究費(前年度3件)、学長裁量経費(前年度2件)の獲得本数を前年度並みとする。